

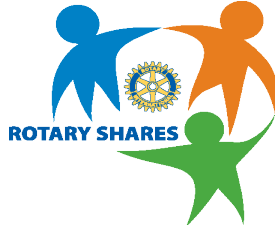
FUJIEDA ROTARY CLUB Weekly Bulletin

例 会:毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局:藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
E-mail club1972@fujieda-rotary.org

会長: 村松 英昭 副会長: 青島 克郎 幹事: 青島 彰 副幹事: 仲田 廣志

第1743回

<ソング> 我等の生業
<ソングリーダー> 仲田 廣志君



2007-2008年度 RIテーマ
ロータリーは
分かちあいの心
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン



【 岐阜の岩谷堂にて 】

写真提供: 山田昭雄君

■ 会長報告

村松 英昭君

こんにちは、今日は文藝春秋 1 月号に掲載されていた「世紀のラブレター 50 通」より一部を紹介いたします。たった 10 年かそこらで、日本人は何でもメールですませるようになってしまった。愛の告白や別れの言葉さえ今や「書く」ものではなく「打つ」ものである。

気軽に書いてすぐに送ることができるのはメールの利点だが、報告書のたぐいならいざ知らず、紙の手触りも個性の伝わる肉筆の文字もない“電子恋文”では、何とも味気ない。

おまけに、恋が終わればクリック一つ、キーひと押しで虚空の彼方へ消えてしまうのも、あまりにも寂しい。恋愛も、言葉も、吹けば飛びそうに軽くなってしまった時代だからこそ、明治から平成まで、さまざまな日本人が一字一字思いを刻んだ恋文を、もう一度、読み返してみたい。と序文から始まります。

いろいろな方々の恋文が紹介されています。最後に、女優の沢村貞子に宛て、夫である大橋恭彦が書いたものが紹介されています。

<・・・私に、こんな楽しい老後があるとは思っていなかった。あなたにめぐり遭えたということ、そして二人で寄り添って生きてきたこと、いろいろな苦労があったけれど、わたしは幸せだった。あなたも幸せだった、と思う。この先、どんなにいたわりあって生きても十年がせいぜいだと思う。「どちらが先になるかはわからないけれど、先立った者が待っていて、来世も一緒に暮らしましょ、

来世もこうしておしゃべりをして、おいしいものを食べて、楽しく暮らしましょ」

貞子は、最近この言葉をよく口にするようになった。(中略)

正直言って、ある晩なんのきっかけもなく、「来世も一緒に暮らしましょよ、ね」と話しかけられて私は絶句してしまった。そして年甲斐もなく泣き出しそうになるのを、じっとこらえた。

今日のこの穏やかなひととき、ひとときの延長線は、彼女の言うように、まもなく断ち切られてしまう。どちらが先に、この住み慣れた坂上にある古ぼけたこの住居から、すぐ近くに煙突の見える火葬場へ一人だけで送り出されるのか、なんの予測も立たない。しかし、二人のうち一人が生きる張り合いを失い、泣きながら「永い間、お世話になりました。ありがとう。さようなら。」を言わなければならない。その日は二人がどうもがいても、叫んでも避けられはしない。そして葬送の日のたった一つの心の寄りどころは(来世)という想像もつかない虚空の一点で、今日と同じ笑顔で、今日と同じやさしい眼で、今日と同じ見慣れた着物を着て待っていてくれる人がいることを、信じるほかはないのだ>(老いの道ずれより)

明治から平成まで、おびただしい恋文を読んできて気が付くのは、告白し、口説き落とし、恋を成就させるだけが恋文の役割ではないことだ。

感謝し、慰め、力づける。思い出を共有し、日常を喜び合い、今生の別れを告げる -。

年齢とともに、男女の間でかわされる愛の手紙は、

そんな機能も果たすようになっていく。好きだ、愛しているという言葉を使わなくても、相手を大切に思う気持ちは伝わる。ラブレターとは決して、若い世代だけのものではないのである。と書かれていました。もし、お暇がありましたらお読みになってみて下さい。

■ 幹事報告 青島 彰君

- 藤枝市長杯争奪ジュニアサッカー大会の案内が届いています。

開会式 平成19年12月22日(土)

午前8時30分 藤枝総合運動公園グラウンド

- 藤枝こどもと本をつなぐ会より会報が届いています。
- 「居酒屋から藤枝を元気にする会」より藤枝ハイボール発表会の案内が届いています。

平成19年12月26日(水)

午後2時 藤枝文化センター

■ 出席報告 松葉 義之君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
23 / 36 63.89%	28 / 36 77.78%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○池ノ谷君 ○石垣君 ○北村君 ○酒向君
○鈴木廣君 ○松葉隆君 飯塚君 板倉君
鈴木舜君 仲田晃君 成瀬君 村松徳君
望月志君

(2)メイクアップ者

村松 宏一君(静岡南) 杉山 静一君(静岡南)

■ ビジター

山本 次郎君(榛南) 伊藤 一成君(島田)

■ 委員会報告

『インターアクト指導講習会について』

インターアクト担当
後藤 功君



日時 2007年12月8日(土曜日)

9時30分～15時

会場 山梨県立甲府城西高等学校 視聴覚室

ホストクラブ 山梨県立城西高等学校

スポンサーRC 甲府北RC

開会式 10時

開会のセレモニーの後、

○基調講演『シルクロード西東 ―与えれば与えられる―』パストガバナー高橋堯昭 身延山大学
名誉教授 毘沙門天妙法寺 山主

高橋さんが仏教遺跡の調査と仏教とギリシャ文化との東西文化交流史研究の為旅行を通じて現地人との「温かな心の交わり」について話された。人にやさしく接することの大切さを熱く語っていただきました。高校生にとっては心に染みるお話ではなかったと思います。

○各校活動発表(20校の内15校が発表)

今回の各校活動発表については、活動状況や問題点、活動の活性化への工夫への取り組みについて報告がありました。印象に残りましたのは、山梨英和高等学校でした。この学校ではクラブ活動ではなく委員会活動として位置づけていることで、会員数(21名)の確保ができており、例会の回数は月に1回不定期のなか、①校内外の環境整備等の奉仕活動、②特別養護老人施設「小山荘」への訪問やわかば支援学校との交流の実施、「世界食料デー昭和町大会」での奉仕活動、③スポンサークラブへの例会出席並びに活動報告、スポンサークラブが推薦する活動として、愛宕山ゴミ拾い活動及び芋煮会参加など、又、海外研修参加などそれなりの活動が見られました。

全体的にどこの学校も会員数が少ないという問題を共通して抱えており、こうした問題をどう対処していくか1つの課題であると感じました。

○実技講習会『コミュニケーションは、まず「あいさつから」』

講師 小沢恵美(山梨県立聴覚障害情報センター
聴覚障害者相談員 甲府市聴覚障害者協会)

事務局長)

講師 望月香代(厚生労働省認定手話通訳士 身延山大学講師)

絵を見ながらの手話のお話、興味深く聴かせていただきました。

閉会式 15時閉会

『米山記念奨学生卓話と寄付金のお願いについて』

財団・米山担当

栗原 毅君



- 12月19日 ダオ・ユウン・チュイ様卓話
- 寄付金は12月19日までに納付をお願いします。

■ 会員増強担当例会

会員増強委員

青島 克郎君



本日は会員増強委員会の事業の中間発表と言うことですが、松葉委員長が仕事の関係で出張しており本日欠席ですので代わりに務めさせていただきます。

前年度は私が増強委員長でテーブルメイトの会合を増やしたりして皆さんのお力をお借りし情報収集をしたり、会長名で市内の大企業の工場長などの入会をお願いする文書をそれらの本社の社長に送るなどしましたが成果を上げることが出来ませんでした。

実際に2名の方にお会いし、1名は入会の了承を取り付けることが出来ましたが突然の転勤で実現できませんでした。あと1名は半年位待ってくれとのことでしたがその後の連絡で結局入会には至りませんでした。

年度が替わり松葉委員長になってから平安閣さんや三井農林さんなどに出向きロータリーの説明をし、お誘いいただきましたが結局仕事の状況や本社の了承が取れないということで成果が出ませんでした。

私も2年度にわたり勧誘活動をしてきて新規会員の獲得がいかにも大変か身をもって感じました。松葉委員長が、退会した元会員だったらロータリーの事はよく知っているし、退会した理由は夫々あるにせよ今の状況は変わっているかもしれないからアタックしてみよう、とにかく1人でも実績を作れば後につながる可能性も有るのではないかと。言うことで退会会員に対して行動を開始し3名の元会員に復帰していただけることとなりました。落合慎吾君、森下敏頭君、大塚博巳君の3名です。大塚君には以前から時々アタックしていましたが体育協会の役員で多忙だから暫く待つて欲しいと言われていました。森下君は仕事に専念すると言うことで退会いただきましたがその後仕事が順調になっている様子なので青島彰君、松葉隆夫君と一緒に森下君の会社に出かけ、戻ってこないかと半ば強制的に説得し再入会の決心をしてもらうことが出来ました。

落合君も県議の仕事が忙しく例会出席が出来ないかも知れないとのことでしたが森下君の復帰の話もし、また仲間になる事となりました。

大塚君の会社にも出かけ、落合、森下両君が復帰することでもあり、もうそろそろ決めようと話をし、ようやく決心していただいた次第です。

この3名はクリスマス例会には参加するように奨めておりますし、1月からは例会に出席していただくつもりです。3名ともロータリー経験もあり委員会活動も期待できそうに思います。

まだ今期も半年残っていますのでさらに新入会員獲得に委員会の総力を挙げ活動を勧めていきたいと思いますので会員各位の惜しみないご協力をお願いいたします。

ロータリー細則のモデルですと会員増強・退会防止委員会と言うことになっていますが、当クラ

ブでは退会防止というのはあまりにも格好が良くないし、前向きでないと言うことで会員増強委員会としています。ロータリー手続き要覧によれば、会員増強は3つの部分から成り立っている。すなわち、新会員の勧誘、現会員の退会防止、新クラブ結成であると有ります。

新クラブ結成は当クラブとしては当面あり得ないことだと思います。むしろ将来クラブの合併すら考えねばならぬ事態さえ来ないとは言いきれないかも知れません。クラブとして委員会名から退会防止という表現は外しましたが、懸念されないわけではありません、と言うより他クラブに比べて長期欠席者が多く退会に結びつく要因を多く持っていると思います。

まず、長期欠席者について真剣にみんなで考えてみる必要もあるかも知れません。現在の長期欠席者の顔ぶれを見ますと主観ではありますがまずその原因は金銭的なものでは無いように思います。多分例会に出席することが面倒だからではないでしょうか、人間は本当に楽しいことだったらどんなに面倒くさくても一生懸命になります。仮に大好きな趣味のためには何とか時間を割いてやろうとします。

そう考えると例会に出席することが余り楽しくないのかも知れません。長い間欠席をすればするほど出席する気持ちが遠ざかって行くものだと思います。出席している会員はロータリーの例会での事や他のロータリアンのことなど折に触れ欠席会員に話したり少なくとも特別例会に誘ったりする努力がもっと必要なのかも知れません。

これまでも数年にわたり新規会員の勧誘のためにテーブルメイトを始め色々な形で話し合いがもたれ候補者もあげていただきました。しかしながら、なかなか結果が出ませんでした。原因は話し合いだけで終わってしまい積極的な行動に移れなかったのではないかと考えています。出来れば会員の一人一人がこの人にロータリアンとして仲間に入って欲しい人を1人だけ決め折に触れロータリーの話をしてもらって興味を抱かせ徐々に誘って

いく事をしていただければいずれ実を結ぶのでは無いかと思います。

私は以前少しお話ししたことがありますが推薦者の江崎さんと亡くなられた元会員の曽根清さん達と11名位で20数年前にスタートしたABC会というテナント勉強会があり毎月会食をしていました。

スタート時は私も30代半ばでしたが徐々にメンバーが減り大分前に解散してしまいましたが、その会食のたびに楽しそうにロータリーの例会のことなどを聞かされていました。私は自然にロータリーに興味を持つようになり、その後入会を勧められたとき、当然のように入会のお願いをしましたような記憶があります。

ただ、ロータリーに入れ入れではなかなか難しいのではないのでしょうか自然に入会したくなるような情報の提供やお付き合いが有ってこそ実現するのもかも知れません。

是非、皆さんがお付き合いされている方の中からこの人と思われる方を1人決めていただき気長にお誘い頂ければいつか花は咲くと確信いたします。私もそのように心がけたいと思います。皆さんにも是非ご協力をお願いし会員増強中間発表の卓話とさせていただきます。

(担当/春原)